

4.4. ディレクトリを移動する -cd, pwd コマンド-

現在の作業ディレクトリ (カレントディレクトリ) を確認するには、`pwd` (**print working directory**) コマンドを用います。引数はありません。コマンドを実行すると、現在の作業場所 (カレントディレクトリ) が表示されます。何も指定しない場合、ユーザのホームディレクトリに移動します。

ディレクトリを移動するには、`cd` (**change directory**) コマンドを用います。cd コマンドは引数として、移動したいディレクトリまでの経路にあるディレクトリを“/”で区切って指定します。この経路のことをパスと呼びます。慣れない間は移動した後で `pwd` を用いて移動した場所をその都度確認するといいでしょう。

```
$ pwd      現在のディレクトリを確認
/home/SL6
$ cd /tmp  /tmp へ移動 (ルートディレクトリ直下の tmp というディレクトリ)
$ pwd      移動できたか確認
/tmp      移動している
$ cd
```

対象 (ディレクトリやファイル) までの経路の指定には、2つの方法があります。

- **絶対パス指定** ルートディレクトリ (“/”) を基準とした時の対象までの経路 (“/” から見て対象はどこにあるか)
- **相対パス指定** 現在の作業ディレクトリ (カレントディレクトリ) を基準とした時の対象までの経路 (カレントディレクトリから見て対象はどこにあるか)

絶対パスを用いる場合には、ルートディレクトリからであることを示すために、先頭に “/” がつきますが、相対パスではつきません。前述の例でいえば “/tmp” は絶対パスということになります。絶対パスで指定されるディレクトリはカレントディレクトリによって変化します。

パス指定で使える特殊なディレクトリとして、“.” と “..” があります。

⇒ “.” カレントディレクトリを指します

⇒ “..” カレントディレクトリから見てディレクトリ階層が一つ上のディレクトリ

```
$ pwd
/home/SL6
$ cd .    “.”に移動
$ pwd
/home/SL6    移動していない

$ cd ..
$ pwd
/home    ←親ディレクトリ（一つ上のディレクトリ）に移動している
$ cd    ←ホームディレクトリに戻る
```

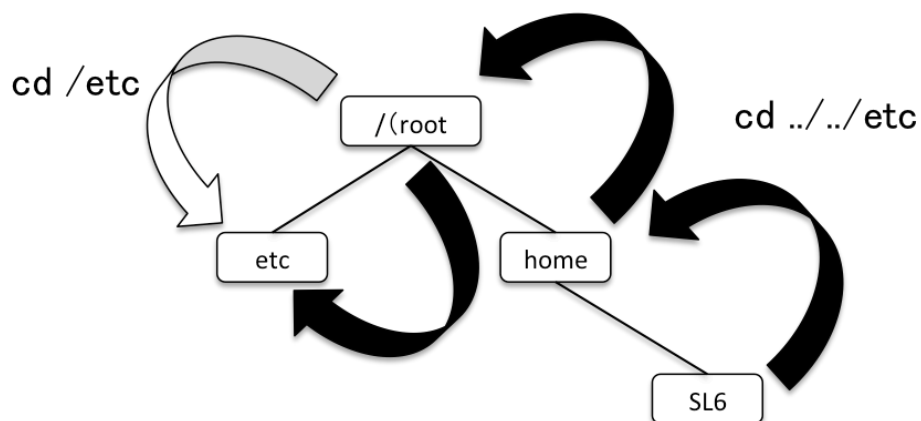
```
$ pwd    現在のディレクトリを確認
/home/SL6
$ cd ../../etc    ←2つさかのぼり、そこにある etc ディレクトリに移動
$ pwd    移動できたか確認
/etc    移動している
```

これらのパス指定はスラッシュ（“/”）をつけることで、連続して移動することが可能です。

このことからカレントディレクトリが“/home/SL6”である場合に、「ディレクトリ“/etc”へ移動する」という操作では、

- 絶対パスで移動（“cd /etc”）
- 相対パスで移動（“cd ../../etc”）

2通りの指定方法があるということがわかると思います。



ディレクトリ “/etc” への移動

また、cd コマンドにはいくつかの特殊な使い方があります。

- **ホームディレクトリへ戻る** 自分がどこにしようと、引数なしで cd とだけ実行することで自分のホームディレクトリへ戻ることができます。ホームディレクトリとは、利用者に与えられた作業領域で、基本的にこのディレクトリ以下は自由に使うことができます。
- **ホームディレクトリの省略名** ホームディレクトリは各ユーザが持っています。ホームディレクトリにはチルダ (“~”) という省略名が与えられていて、ディレクトリ名として利用することができます。チルダはファイルコピー等でのディレクトリ指定でも使うことができます。